

第 14 回デメンシアカンファレンス 報告要旨

『認知機能障害で発症し、その後歩行障害を 来たした一例』

発表者：金沢大学 神経内科 小松潤史

司 会：金沢大学 神経内科 池田芳久

【要 旨】

60歳時にものわすれで発症し、後に歩行障害を来した。当科にて遺伝性痙性対麻痺と臨床診断した。能登地方に在住の患者であり、同地方の遺伝性痙性対麻痺を当科症例で検討した。症例は4家系7症例。全例に前頭葉機能障害を認め、頭部MRIにて脳梁の萎縮を伴っていた。うち1つの家系は、視床変性による前頭葉機能障害という特徴を有する新たな遺伝性痙性対麻痺の一型である可能性があると考えられた。

【質問・意見】

質問：・・・・遺伝子検査はしたのか？

回答：・・・・十分な検査は出来ていない。

コメント：

- ・富山の氷見でも痙性対麻痺の家系を経験しているが、認知症は伴っていないかった。